

授業料等不徴収協定に基づく派遣交換終了報告書

所属（本学）	工学部国際開発学科		
現在の学年	学部3年		
留学先国	米国	留学先大学	ワシントン大学
留学期間	2014年9月～2014年12月		

1. 留学先大学の概略

ワシントン大学(The University of Washington)は、米国ワシントン州シアトルに本部を置き、1861年に設置された州立大学である。太平洋北西部最大の規模を持つ総合大学である。主なキャンパスはシアトルに位置され、その他に Tacoma と Bothell にも分校を持つ。

通称「UW」のワシントン大学は、全米の総合大学ランキングでは12位となっている。特に、医学と看護分野が全米最上位の評価を得られている。全校では、16の専攻が設置され、毎年12000以上の学士、修士、博士号を提供している。

2. 留学前の準備

自分は、二年前期の頃から海外留学を考え始め、留学報告会や留学フェアなどのイベントに参加していた。その時、留学プログラムの手引きや大学紹介冊子を集め、経験者と担当先生との相談を通して、色々具体的な情報が得られた。それから、学科の先生と家族からもサポートをもらって、真剣に交換留学の準備に着手した。

ワシントン大学に出願する前に、TOEFLを受験した。(留学生の大学入試もTOEFLが要求されるので、受験経験あり。) また、所属の国際開発工学科独自のクォーター制により、留学中の三年後期に履修できない講義を四年の後期に登録するように、学科長の同意を得た。

留学中に東工大の研究室配属が決定されるので、予め出発前に希望の研究室に見学し、学科の先生と連絡を取っておいた。それで、留学中にメールで配属の事情を連絡するようにしていた。

3. 留学中の勉学 研究

登録授業 (単位)

1) Exploring Atmospheric Science (1)

Focuses on current research in the atmospheric sciences

2) Introduction to Atmospheric Science (5)

Composition and structure of the atmosphere. Clouds and weather phenomena.

Thermodynamic processes. Solar and terrestrial radiation. Air motions. Daily weather discussions and forecasts.

3) Atmospheric Motions I (3)

Basic equations governing atmospheric motions and their elementary applications; circulation and vorticity; dynamics of mid-latitude disturbances.

4) Energy Future (5)

Surveys the scientific, technological, and social barriers to large-scale renewable energy implementation.

感想：英語環境の下で、講義や課題などは理解できるのか心配したのだが、思ったよりできると感じた。公式や計算がメインな授業に対しては、すぐに受け入れ、暫くすると自分のペースで学んでいくのもそんなに難しいことではない。その一方、講義やディスカッションの形のクラスでは、やはりインプットもアウトプットも最初はうまくいかなかったことが多い。そんな時知識や発音より、勇気と発想が何よりだと実感した。

4. 留学中に行った勉強以外の活動

ワシントン大学留学生センター主催のプログラムによって、地元のファミリーと知り合うことができた。そのおかげで、ハロウィーンデーなどの祝日に伝統的なお祝いや食事などを体験でき、シアトルまたは米国について新たな理解が得られた。

また、11月の祝日に東海岸のニューヨークに三日間、12月期末後に西海岸のカリフォルニア州に十日間旅行を楽しんだ。

5. 自分自身の成長を実感したエピソード

自分は最初に、クラス中に英語で質問や回答など控えめにしていた。自分の考えた答えが正しいのか、質問がもしかしてすでに教えたものなのか、英語が間違いないのかなど、いろいろ迷った結果、とうとう手を挙げることはしなかった。ある日の **Intro to Atmospheric Science** という授業で、チャレンジしてみようと思い切って、講義中に質問をした。先生もほかの学生も非常に普通の扱いで、回答と討論を行った。自分はほっとしながら、以前の緊張感から切り替えて、落ち着いて授業を楽しむようになっていた。

6. 留学費用

渡航費：片道:8万～9万円

住居費（食費含）\$2518+\$819（約40万円）/ quarter

（大学寮に住む場合、必ず食堂の **Dinning Plan** に加入するので、全額には一部食費含む。）ただし、外食する場合もあり、総計50万円。

保険料：39340 円

東京海上日動火災保険プラン E 4ヶ月間

奨学金：8万円/month

東工大基金による援助

7. 留学先での住居

Stevens Court という On-campus Resident Hall に入居した。4人の学生がそれぞれシングルルームを持って、キッチンや客間などをシェアするタイプのアパートである。ルームメートも UW の学部生で、トルコからの交換留学生一人と地元のアメリカ人二人である。

住居は On-campus Hall と Off-campus Hall 両方ある。学校の寮に住みたい場合は、申請指示に従って HFS (Housing & Food Services) のページでオンライン申請を行う。校外のアパートに住む人もいるらしいが、自分は短期なので、学校寮のほうが安心だと思った。

8. 留学先での語学状況

一般的に、授業も生活も英語で行われている。ただし、米国は移民国で、世界各地から留学生や移民が渡米するから、文化と言葉の多様性が尊重され、比較的異文化に対する包容的な社会である。そのため、英語がネイティブでなくても、アクセントや文法を間違えても、普通にコミュニケーションができると感じていた。ただし、担当の先生によって、講義中に使われた英語には得意と不得意な場合、両方あった。

9. 単位認定

学科の先生と相談した結果、留学中に取得した単位の認定交換はしない。

10. 就職活動

留学中には、就職活動をしていなかった。帰国後、大学院に進学することを考えている。

11. 留学先で困ったこと

なし

12. 後輩へのアドバイス

自分は、留学を決める段階で行くかどうかかなり迷っていた。しかし今振り返ってみると、確かに東工大の授業や研究室の配属などに立ち遅れ、厄介なことになったが、4ヶ月間の留学経験が人生の貴重な宝物だと考えている。留学先で知り合った友人、履修した講義、体験した生活は、今後も簡単に繰り返すものではない。もっと広い世界に向かって、勇気と自信を出して、何でもとりあえずチャレンジしてみようという心強い信念が何よりだと感じている。